

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

第50回 北海道博物館大会 6月30日、7月1日釧路市で開催

現在の釧路市立博物館が移転新築してまもない昭和59(1984)年以来、27年ぶりの博物館大会開催となります。この間、市内には美術館・芸術館・遊学館と館種の異なる博物館が開館し、各々多彩な活動を展開しております。

今大会のテーマである「連携」。テーマそのものはこれまでも何度も取り上げられ、けっして目新しいものではありません。昨年の札幌大会においても、館種の異なる施設から連携によるさまざまな活動が紹介されました。釧路市立博物館においても、石炭・炭鉱をキーワードに、全国の旧産炭地域の博物館施設と連携しながら調査・展示を実施しております。1つの施設が地元だけを紹介するのではなく、ほかの地域を紹介し比較することで、あらためて地元についての理解が深まるという効果が現れております。この連携が1+1+1=3.5に、あわよくばそれ以上になればと願いつつ、この事業を進めております。

1日目の基調講演では、当市副市長小松正明氏から、生涯学習からみた博物館についてお話いただきます。小松氏は北海道開発庁(当時)に入庁後、「生涯学習のまち」として知られる静岡県掛川市の助役として3年間、生涯学習に携われてきました。昨年7月より当市に副市長として迎えられております。

また、シンポジウムでは釧路市こども遊学館の小笠原忍氏、美幌博物館の平林結実氏、水辺のメディア研究会の高尾戸美氏よりそれぞれ報告をいただいた後、会場の皆さまも含めて意見交換していきたいと思っております。中でも、高尾氏は有志によって立ち上げたグループが、文化庁等の支援を受けて制作した回遊魚をテーマとした展示をパッケージにして、各地の博物館で巡回展を開催する活動を行っております。

釧路市立博物館でも昨年度に開催いたしました、連携の方法を考えていく上で得るものが多くありました。シンポジウムの中で具体的な内容をご紹介します。博物館を取り巻く状況はますます厳しくなっております。地域の中で「博物館は必要」とされるには、博物館からどのような発信が求められるのか、あらためて考える機会にしていきたいと思っております。

次に各館の紹介をいたします。

【マリン・トポスクしろ】

昭和61(1986)年、副港に完成したくしろ水産センター内に開設。「今日の水産」「釧路の漁業」「漁業近代史」など8つのコーナーに分けられ、海の科学や漁業技術、歴史などを実物資料や映像などで紹介しています。

「トポス」とはギリシャ語で「場所」を意味し、釧路の水産業の実態を知り、その未来を語る「場」として名付けられました。

【鳥取百年館】

釧路市の鳥取地区は、明治17(1884)年に鳥取県士族が移住して開かれた地であり、移住100年を記念して同館が昭和59(1984)年、鳥取神社境内に開館しました。

鳥取城をイメージした建物内には、旧鳥取藩主池田家ゆかりの所蔵品のほか、移住者が故郷より持参した武器や当時支給された生活用品などが展示されています。

【釧路市立博物館】

昭和11(1936)年創立。現在の建物は同58(1983)年に完成。「北の大地にくり広げられる自然と文化」が展示テーマ。フロアごとに自然、くらしの移り変わり、アイヌの人々などに分けて釧路の自然と歴史に関する展示を行っております。

【釧路市こども遊学館】

平成17(2005)年、「学び」と「遊び」の融合をコンセプトに開館。屋内では国内最大規模の砂場が来館者を迎えるとともに、参加体験型の展示やプラネタリウムを持ち、ボランティアの活躍の場となる多彩な事業を展開しております。

【釧路芸術館】

平成10(1998)年開館。写真や自然をテーマとした作品を所蔵。展示のみならず、さまざまな芸術活動の拠点として活動しております。

【釧路市立美術館】

平成4(1992)年に開館した釧路市生涯学習センター内に「アートギャラリー」としてオープン。平成12(2000)年に「釧路市立美術館」と改称。特別展や所蔵品を中心とする常設展の開催を主体に、センター機能を活用した各種普及事業を展開しております。

(釧路市立博物館 学芸専門員 戸田恭司)



北海道ミュージアム推進事業

北海道開拓記念館リニューアルに向けたアンケート調査

昨年、北海道は「北海道博物館基本計画」を策定し、北海道開拓記念館をリニューアルする方針をかためました。これを受けて北海道開拓記念館は「北海道ミュージアム推進事業」を進めることとなり、新たな博物館づくりに専門的な外部意見を取り入れるため、北海道博物館協会に協力を求めることといたしました。その内容は、北海道博物館協会が主催する「学芸職員部会」(会場: 釧路市立博物館/9月16日)、「ミュージアム・マネジメント学会」(会場: 江差町開陽丸青少年センター/10月21日)の事業のなかで、主に博物館の専門職員にアンケート調査を実施させていただいたことです。アンケートは65枚を回収し、ほぼ全道各地域の学芸員の方々から回答を得ることができました。この調査の大きな目的は、「地域博物館とのネットワークづくりの検討」をおこなうため、道内博物館の現状を把握することとして実施したものです。

アンケート調査の結果、当館が進めるリニューアル事業に対し、期待感がとても強いことが伝わってきました。アンケート調査結果の概要を報告すると、博物館の技術的な研修システムの必要性では85%と誰もが

必要と答えており、博物館資料の保存・管理、文化財の取扱、展示技術の実践、普及行事の実践などの研修が必要とされているということです。ICTを活用した博物館ネットワークのシステムづくりでは、71%の方が必要性を強く求めており、持続可能な具体的なシステムの提案が必要とされています。博物館の人、モノの連携強化をはかるためのネットワークやシステムづくりでは、資料閲覧やアーカイブ閲覧などのネットワーク、共同研究や共同普及事業などのシステムづくりが必要とされています。このネットワークやシステムづくりを進めるためには、実施予算、専門的な人材、博物館間の連携など解決しなければならない課題も多いことが指摘されています。この他にも少数意見ではありますが、企業連携や大学・研究施設との連携や実施に向けた行政組織内での理解も必要であることなどの貴重な意見もいただきました。

北海道開拓記念館は4月に40周年を迎え、今年にはリニューアルプランを本格的に策定していきます。アンケート調査の多くの意見では、北海道の中心的な博物館として、さらなる役割の強化が望まれておりました。この調査にご協力いただいた方々に感謝とお礼を申し上げるとともに、意見を反映できるよう微力ながら努めたいと考えております。今後ともご協力、ご指導を切に願っております。

(北海道開拓記念館 企画調整課長 右代啓視)



企画展 「モノにみるデザイン」展 ー七飯町歴史館よりー

収蔵資料の整理をしていて「なんてお洒落な道具なのだろう!」と驚かされることは、学芸員であれば、一度は経験することだと思う。実際、機能の向上とはまったく関係ない凝った意匠が施されている道具などを見ていると、往時の粋な心意気やモノがもつ魅力を感じる。

資料整理をしていく過程で、こういった民具にみられる模様や意匠などを調べていくうち、それぞれの意味を知る機会を得た。例えば、祝い事に用いられる漆器などに描かれる「松」は、命あふれる象徴であること、風呂敷などに用いられる唐草文は生命力の強いツタにあやかっ、繁栄を願っているなど、何らかの意味があった。おそらく、四季が巡る日本では、自然の移ろいを敏感に感じ取りながら、その刹那を楽しむ心が醸成されたため、自然を反映する伝統模様が多いのではないかと考えた。

自分が得たある種の感動を伝えたく企画したのが「モノにみるデザイン」展である。約90点の資料と、切

絵を使った伝統紋のパネルを用いて、伝統模様を紹介した。また、茄子をみたてた鉄瓶や兎の顔をあしらった猪口など「遊びごころ」のある意匠が施された道具も展示した。併せて、昭和時代に収集された800点に及ぶマッチコレクション



切絵を使ったパネルと漆器

を一堂に紹介し、絵柄にみられるデザイン性を提示し、子供たちが遊びながら学べるようにと、パネル作製に用いた紋の切絵を体験できるコーナーも設け、幅広い年代層が楽しめるようにした。

古今東西、私たちの周囲には「デザイン」されたモノがあふれ生活を彩っている。本展示がその事を透過せず感知する糸口になればと願う。

(七飯町歴史館 学芸員 山田 央)



オオハンゴンソウ抜き取り作戦in鳥沼 ～人と自然の関わり方を考える～

2年前から北米原産で特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの防除活動を市内の鳥沼公園で行っています。きっかけは平成21(2009)年に開催した特別展「外来生物展～身近な自然を見つめてみれば…」でした。展示に合わせて調査を進めていくうちに、事態の深刻さを身に染みて感じ、希少な湿原環境に多様な動植物が生息する鳥沼公園くらいはせめて何とかしたいと思い、旭川帰化植物研究会の塩田惇先生、ざりがに探偵団の齋藤和範さんのご支援をいただきながら遅ればせながら始めたところです。

一昨年は試行として1回、昨年はサンエー会という地元企業連合有志の皆さんの奉仕活動、教育研究会理科班の教員研修会、博物館の独自事業として計3回行いました。鳥沼公園内のオオハンゴンソウは、日の差し込みやすい公園の周囲、散策路沿い、さらに湿地内部のジメジメした場所を埋め尽くすようにびっしりと分布しています。その上、抜き取るときに根を残すと再生し、かつ土中にシードバンクを形成しているため、抜き取っても、抜き取っても次から次へと生えてきます。正直、1年目は気持ちが萎えそうになりましたが、昨年からは地元企業や市民の皆さんの強力な応援をいた

だき、本当に心強く、「やらなくては！」と決意を新たにしています。

今年も春植物が終わる6月以降、オオハンゴンソウの花期を迎える前に市民の皆さんと一緒にオオハンゴンソウとニセアカシアの防除活動を行うことになっています。僅か30haほどの孤立環境に富良野盆地の原風景が遺された鳥沼公園。私たち富良野市民にとって大切な憩いの場である自然公園として、また生き物たちが命を繋ぐための希少な生息環境として後世に遺していくため、活動を続けていきたいと考えています。また、こうした活動を市民に広く知っていただくために、本年3月には『富良野の外来生物』というガイドブックを刊行しました。なお、防除活動にあたっては環境省に申請、許可を得て開催しております。



オオハンゴンソウ防除作業
(2010年鳥沼公園)

(富良野市博物館 澤田 健)



史跡の大長老を巡って

昭和5(1930)年、史跡白老仙台藩陣屋跡には、仙台藩から出兵した藩士植樹の赤松が11本確認されていた。しかし、70余年を経た平成15(2003)年の秋、白老の変遷を見守り続けてきた赤松はついに一本限りとなってしまった。200年は生きるといわれる赤松だが、最後の1本も既に胴枯病による倒壊の危険性を囁かれてきた。

平成19(2007)年以降、資料館では解説ボランティア団体友の会の委託を受け、“赤松せんべい”の販売を行ってきた。このお菓子は内容物が3×5の個包装となっていて、それぞれの包みには薄い板状のせんべいが20枚ほど詰められている。パリパリとして食感もよく、好評の理由は味わいだけに留まらない(稀に質問を受けるが、赤松のエキスまでは注入されていない。落胆する方もいらっしゃるので、検討すべきかが悩みどころである)。この売り上げ520円のうち、益金の126円が赤松保全のために積上げられてきた。そして平成21(2009)年度末までの3年間で、実に20万円が積み立てられた。“お菓子”としての魅力もあっただろうが、何よりも“赤松保全”に多くの方が

共感・協力くださったことに感謝の念を禁じえない。

年度が改まり、友の会は平成23(2011)年度の総会開催に際して、赤松の管理事業資金として寄付。史跡に唯一残った、幕末の赤松を支える支柱の交換事業費にあてることとなった。

もともと、作業は字面ほど簡単なものではない。150余年の歳月が赤松を周囲の木々より遥かに生長させ、従って用いる支柱も長大である。また用材もカラマツやトドマツなど、より耐久性のあるものに変えた。平成16(2004)年に設置した支柱自体の、腐食・劣化が著しかったからである。

とはいえ、防腐剤を塗っても限界はある。首尾よくせんべいの売り上げが伸びれば幸いだが、心許なさはどうしても残ってしまう。そもそも、ボランティア団体からの寄付前提の話でもない。

執筆段階において、当事業は未実施の状態にある。管理母体としての不甲斐なさは痛感するが、赤松を巡り寄せられた想いは遂げられて欲しいものだ。この「道博協ニュース」第102号が刊行される頃には換装を終えているはずなので、結果についてはHPなどで確認いただきたい。

(仙台藩白老元陣屋資料館 学芸員 平野敦史)



帯広百年記念館 アイヌ民族文化情報センター「リウカ」 リニューアルオープン&今年度の事業

平成17(2005)年度に開設したアイヌ民族文化情報センター「リウカ」が、今年1月リニューアルオープンしました。「リウカ」とは十勝地方のアイヌ語で「橋」という意味。みなさんとアイヌ文化の橋渡し役となるようにと願いを込めて名づけました。以前は百年記念館2階に開設していましたが、1階に移転したことで、場所もわかりやすく、気軽に立ち寄れる学びの場となりました。リウカでは、アイヌ文化について本やビデオ、CD、インターネットを利用しながら学ぶことができます。また、各地のイベント情報やニュース、最新の出版物を紹介しています。以前よりも広いスペースを確保できるようになり、アイヌ文化に関するワークショップや学校の授業にも対応しやすくなりました。GW期間中は多くの方が訪れ、「鹿笛づくり」やアイヌの子どもの遊び「ウコニアシ」などを楽しみ賑わいを見せていました。

今年度、帯広百年記念館では、博物館講座や連続講座「カエルはみんなの先生だ!」「地質講座」、郷土学習見学会、「はく製づくり教室」などの体験教室の他、収蔵作品展「魂の画家 寺島春雄の世界」を開催します。足寄動物化石博物館協力のもと開催する企画



新リウカオープン前日

展「とからの化石」では、太古の十勝のようすについて骨化石の展示をとおして紹介します。また、帯広市の社会教育施設(帯広図書館、おびひろ動物園、帯広市児童会館)と連携した事業も行います。今年度は、夕涼み生涯学習事業(こわい話の朗読、夜の動物園)、未来に伝えるあそび体験(昔あそび体験、昭和のあそび道具たち展)など同一テーマでイベントや展示、4施設を結ぶ「散歩コース」を紹介したパンフレット製作を行います。各館の若手職員が集まり、より質の高いサービスや魅力ある学習機会を提供できるよう、試行錯誤しながら事業を考えています。

(帯広百年記念館 学芸員 伊藤彩子)



遠軽町埋蔵文化財センターが 特別開館

4月29日から6月10日まで遠軽町役場白滝総合支所の2階に遠軽町埋蔵文化財センターの無料特別開館を開始した。本オープンは7月8日を予定している。

遠軽町は平成17(2005)年10月に遠軽町、生田原町、丸瀬布町、白滝村が合併したが、埋蔵文化財を展示・収蔵する施設が老朽化・狭隘化しており課題となっていた。

白滝総合支所(旧白滝村役場)は平成9(1997)年に建設したが、合併後に2階事務室や議場が未使用となり、平成22(2010)年度に改修工事を実施した。事業費は1億7,965万円。施設は展示ゾーン670㎡、体験学習ゾーン780㎡、収蔵ゾーン160㎡で、展示ゾーンは白滝遺跡群での石器づくりの紹介・ホンモノのマンモス牙の展示や遠軽の考古学研究者・遠岡栄治氏のコレクション展示など常設展示を6つのテーマに分けて町内の出土遺物を解説している。本オープン後は、今年新たに国指定重要文化財の答申を受けた国内最大級を誇る旧石器遺跡群で「北海道白滝遺跡群出土品」1,858点のほとんどを黒曜石ギャラリーにて展示公開を行う。



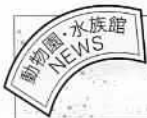
石器づくりを解説した展示室の様子

また、体験学習ゾーンは50名程度まで収容可能な体験学習室を整備。黒曜石での石器づくり、滑石でのまが玉づくり、黒曜石や鹿角でのアクセサリづくりなど各種体験学習を行うことができる。

また、日本一の黒曜石原産地「赤石山」を見学するバスツアーを実施する。

今後は、町内の埋蔵文化財の活用としての役割とともに、日本ジオパークに認定となった黒曜石原産地を中心とした「白滝ジオパーク」と連携し、教育・観光活動への活用が期待される。

(遠軽町埋蔵文化財センター 松村愉文)



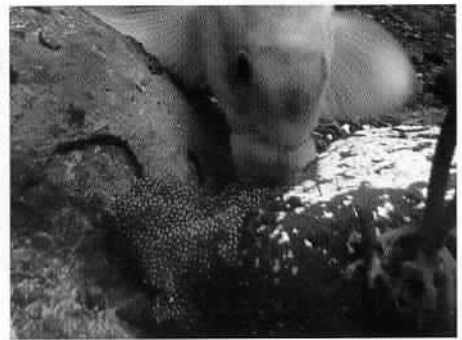
奥深い…魚の繁殖

水族館での魚の繁殖…、こう書くととにかくマニアックな感じを受けるかもしれませんが、これは非常に奥が深い。

小樽水族館では様々な魚の繁殖に取り組んでいますが、中でもホッケは平成19(2007)年に当館が国内で初めて繁殖に成功し、以後ほぼ毎年繁殖しています。平成19(2007)年以前も毎年のように水槽内の産卵がありましたが、なかなか孵化した仔魚が育たない。原因究明のため仔魚に与えるエサの種類や量、照度、エアーの量を変えるなど様々なことを試しましたが、孵化して一ヶ月もすればほぼ全滅。当時は仔魚の状態が気になり休日返上で観察していましたが、仔魚一匹一匹の「死」を考えた時、「死」に比べて私の苦労なんて苦労とは到底言っではいけないものだ、と感じた事を思い出します。最終的には仔魚の飼育水に、エサの動物プランクトンの他に動物プランクトンのエサである植物プランクトンも入れて、動物プランクトンの栄養価を高め、水槽の形状やサイズを変える、などの工夫が功を奏して仔魚の長期飼育に成功しました。繁殖は技術的にも未知の部分が多く奥深いものがあります。

しかし、生き物の生きる術にはさらに奥深いものが

あります。ホッケの父親は産卵の後、孵化するまでの50～60日間エサを食べずに卵の世話をします。自然界では卵を狙う外敵がいるため



卵の世話をするホッケの父親

絶食して卵を保護するのですが、水槽内ではこれといった外敵もいません。それなのに目の前にエサを落としてもエサを食べない。それはもう全身全霊をかけて卵を守ることに集中しているからなのでしょう。こういう姿勢を見ると、自分自身を振り返り、これくらい必死に物事に取り組まなければとついつい考えてしまいます。魚から人生を学ぶ、このような切り口で生き物を観察するとまた違った面白さを発見することができるかもしれませんね。

ちなみに今年もホッケの赤ちゃん(青ボッケともいい、体色が親と違いコバルトブルーで非常にキレイ)の展示を考えていますので、機会がありましたら是非ご覧頂きたいと思います。

(小樽水族館 魚類飼育課 三宅教平)



学芸職員部会の総会研修会の 余市町開催とアンケート調査の報告

平成23(2011)年度の学芸職員部会総会研修会は、9月8日(木)9日(金)余市町中央公民館で開催されることになりました。研修会テーマは、今後、部会員からの意見を集約し、役員会を経て決めていくこととなりますが、皆様のご参加をお待ちしております。

昨年度、釧路市立博物館での総会研修会では、事前に部会員にアンケート調査を実施しました。その結果は、道博協ニュース第100号に報告されています。ここでは学芸員の資質向上に関わる点について報告します。学会参加については50%が自費での参加、参加しないが19%でした。公費で調査研究費があるか質問したところ21%が公費ありと回答しました。また、調査研究への取り組みについては、充分取り組んでいると答えた人が2%、まあ取り組んでいる・努力不足と認識している人が27%という結果でした。この三点の回答から、公費で調査研究しても充分ではないと認識し、自費でも学会などに出席し、自己研鑽する学芸員像がみえてくるのではないのでしょうか。

道博協の大会や研修会への参加については、公費参加が58%、自費参加が14%という結果となりました。所属する学会などについて質問したところ、自然史、歴史、考古

学、博物学、地域限定研究会など多様な分野の専門的な66学会があげられました。新しい学術的情報を入手し、活動に取り組んでいます。多様な人材が北海道にはあるのです。どう活かしていくか、我々の技量が問われるところでしょう。回答数は43施設52名でした。2人以上の学芸員を擁する施設は65%。学芸員の世代交代については、一人学芸員の施設の93%が世代交代できておらず、世代交代が順調と回答したのは学芸員数3人の3施設だけでした。自治体職員の削減、私立施設でも不景気の影響を受けているなど、学芸員の雇用を取り巻く現状はとても厳しく、それぞれの地域で培ってきた学術的な知恵や経験、人材、技術や資料が、将来に継承されるのが難しくなるのではないかと危惧されます。

平成23(2011)年4月より小中学校では新学習指導要領が本格的に導入され、博物館や資料館を活用した地域学習・体験学習なども明記されました。すでに学校教育との連携に取り組んでいる施設・学芸員もありますが、行政が博物館資料館などを教育施設として捉え、学芸員を教育者として育成する体制の構築を望むばかりです。そして、学芸員も研究者であり教育者でもあるという自覚を高める必要があります。

(学芸職員部会 事務局長 中岡利泰)



流水科学センターの取組について

地方の小さな科学館である当施設は、本年2月おかげで設立20周年を迎えることができた。大都市の近代的な科学館とは異なり、大半の施設はリニューアルどころか展示物の更新、修理さえままならない状況ではないだろうか。当施設も例外ではない。この厳しい現状を打破するには、職員のアイデアと行動力あるのみ。お頭(かしら)指令のもと、以下に示すように職員による手作り展示物の登場する機会がぐんと増えた。

- ①浮沈子を利用して、オホーツク海の特有の水塊構造を説明する教材などは、平面的な解説パネルよりもはるかにわかりやすい。
- ②水道水を沸かす作業から始まり、アイロン掛けで仕上げられる透明度バツグンの魚の水漬け標本は、さながら氷の立体魚類図鑑である。当施設の厳寒体験室内にある「流水水族館」に展示され、来館者から人気を集めている。
- ③前庭に設置しているオブジェ「流水だんダン」は、網走地方気象台の約120年間の貴重なデータを基に、流量と気温の変化を丸太を使って赤青の棒グラフ状に表したもので、年平均気温の上昇とは逆

に、流量は年々減少傾向にあることが一目瞭然であり、近年世界中で問題となっている地球温暖化の啓発に一役買っているシンボリックな存在である。

なお、オホーツク海の流水減少の話は、来年度から使用される中学一年・国語(森村図書)の「流水とわたしたちの暮らし」にも登場する。さらには、事業資金を自分たちで捻出しようと努力、様々な助成金事業に応募、少額ながら採択決定されて、これまで弱かった学校や教育関連施設との連携事業にも積極的に取り組むことができるようになった。たとえば、前浜での地引網体験、海・川・森の繋がりを理解するサケ・マス遡上観察会、コムケ湖での専門ガイド解説の受講など、ふるさとの自然を生かした体験学習を充実させた。これらは、ふるさとの自然環境保全の意識を高めることにも役立つと考えられる。

今後も地域の人々に『小さいけれどオホーツク海沿岸域に不可欠な施設である』と言われるよう、職員一丸となって努力を重ねる所存である。

(北海道立オホーツク流水科学センター
事業課長 元木ひろみ)



帯広美術館、開館20周年！

今年、帯広美術館は開館20周年を迎えます。

記念事業第1弾は、7月1日(金)開幕の特別展《十勝の美術クロニクル》。帯広美術館では開館以来、十勝圏域の美術動向を調査・研究し、展覧会や作品収集に結実してきました。本展もその一環。開拓期以降の美術の流れを、年代記(クロニクル)風に振り返ります。

ところで・・・当館が十勝の美術史を総括的に検証するのは、初の試み。20年経って何を今さら・・・と、指摘されれば汗顔の至りですが・・・この企画を、地域美術史の再検討・再構築の端緒にしたいと思っています。

一方、道立美術館のなかで帯広が担当するエリアは、釧路・根室・オホーツクも含めた道東全域。当館は十勝だけに留まるわけにはいかないのです。釧路・北見・網走と、道東各地には優れた美術館施設があります。それらと連携し重層しながら、当館は活動していかなければなりません。この面からも今回の企画は、以後の活動の拡充を探る端緒とすべきものなのです。

9月16日(金)からは記念事業第2弾の小企画《コレクションのあゆみ》を開催します。当館では、①道東の美術、②プリントアート(複製・印刷技術を用いた美術作品)、③バルビゾン派を中心とした西洋の美術、という三つの方針のもと、作品収集を進めてきました。この小企画では、当館コレクションのアウトラインを再見します。また併せて、10年ぶりに所蔵品目録を増補・再刊したいと、調整を進めています。

美術館・博物館活動の根幹は、「収集」「保存」「展示」「教育普及」そして「調査・研究」。その重要性は、改めて述べるまでもありません。しかしこの20年のあいだに、社会が美術館や博物館に求める像が、変化してきたことも事実です。

歴史的にみれば、博物館は貴重な資料を「収集」「保存」する保管庫として誕生しました。それはやがて資料を公衆に開陳する「展示」施設へと機能拡充します。さらに単なる展示に留まらずさまざまな「教育普及」事業を展開することを求められてきました。同じようにこれからも、時代の趨勢に伴って、博物館の機能拡充は求められていくことでしょう。

20周年の節目は、「来し方」と「行く末」を、ともに見つめる契機だと、思っています。

(北海道立帯広美術館 学芸課長 鎌田 享)

館・園の主な展覧会と普及事業 (7月~10月)

石狩

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)
7/9~7/31 子母澤寛と大道書房-石狩市民図書館貴重書コレクションから-
7/23 体験講座「勾玉づくり教室」
7/30/17 体験講座「土器づくり教室(全2回)」
8月(日は未定) 体験講座「化石のレプリカをつくる」
9/3/9/10 体験講座「フライドチキン骨格標本をつくる(全2回)」
9/7~10/24 石狩の遺跡と縄文文化
10月(日は未定) 野外講座「石狩ビーチコマーズ」
10/29~11/3 石狩海辺学~海と陸との出会い~(※会場:紀伊國屋書店札幌本店)

札幌市青少年科学館 (011-892-5001)

7/1~8/10 夏の移動天文台
7/2 子ども向けメカト教室
7/7~8/9/1~2.10/6~7 出前サイエンス
7/8~7/10/7/22~24.8/5~7.8/19~21.9/9~11.9/23~25 札幌市天文台夜間公開
7/16~17.9/10~11.10/15~16 ちびっこワークショップ
7/23.8/27.9/24.10/22 科学館天体観望会
7/23.8/27.9/24.10/22 プラネタリウム夜間特別投影
7/26~27 気象講座
7/26~8/21 夏の特別展「脳活 プレイン・トリップ(仮)」
7/26~31.8/6~12 夏休み工作会
8/1~2 サイエンス・科学教室夏休み特別編
8/6 夏休み天体観望会
8/27.9/24.10/29 サイエンス・科学教室
9/1~10/16 秋の移動天文台
9/3~4 さつぼろ星まつり

札幌市豊平川さけ科学館 (011-582-7555)

7/2.10.17.24.8/13.20.27.9/3
体験イベント「わくわくたいけんサケたちのエサやり」
7/9 さかなウォッチング(星置川)
7/16 さかなウォッチング(琴似発寒川)
7/23 さかなウォッチング(北の沢川)
7/30 真駒内川ミニ水族館
8/6 公開さかな調査
9/19 さつぼろサケフェスタ2011
10/1 探検実習
10/29.16 サケ・タッチ・プール
10/22 サーマン・ウォッチング(豊平川)
10/29 サーマン・ウォッチング(星置川)

札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)

7/9~8/28 展覧会 メアリー・ブレア
9/3~10/23 展覧会 森と芸術

札幌市博物館活動センター (011-200-5002)

7/2 体験学習会「植物から札幌の原風景を探る」
7/16 科学絵本よみきかせ&学芸員の井戸端サイエンス テーマ「セミ」
7/23 サイエンス・フォーラムinさつぼろ
第9回「北海道の昆虫」
7/30 体験学習会「地史見学会」
~7/30 第32回企画展「豊平川の化石-化石が語る「札幌の海」-」展
8/4 体験学習会「化石クリーニング」
8/6 体験学習会「昆虫採集会」
8/20 科学絵本よみきかせ&学芸員の井戸端サイエンス テーマ「影」
体験学習会「漂着物観察と化石採取」
9/11 科学絵本よみきかせ&学芸員の井戸端サイエンス テーマ「月」

千歳サケのふるさと館 (0123-42-3001)

7/16~8/28 夏期企画展「か☆ら☆☆☆☆
~おさかなカラフルコレクション」
7/16.8/20.10/8 科技大生による実験教室
7/22~8/28 展示会「アイヌ刺繍展(ちくちくの会作品展)」
7/28~29 水族館宿泊体験・キッズナイト
8/6~7 水族館宿泊体験・ファミリーナイト
9/3~10/16(仮) 展示会「内山りゅう写真展」
毎月第2・第4土曜 サタデースクール

北海道開拓記念館 (011-898-0456)

7/3 特別展関連歴史講座「幕末の志士松浦武四郎と伊勢神宮」

~7/10 第67回特別展「伊勢神宮と北海道」
7/24 考古学講座「石器をつくる」
8/5~9/25 第68回特別展「千島・樺太・北海道 アイヌのくらし-ドイツコレクションを中心に-」
8/13 視察会「草原の王者トノサマバクタをさがそう!」
8/14 特別展関連体験講座「アイヌの楽器 ムックリを作って鳴らしてみよう」
9/18 特別展関連座談会「生まれ育った樺太・落帆の思い出-樺太アイヌの女性にきく」
10/23 特別企画 映画「アイヌのユリ子さん」上映会
10/30 体験講座「生命の設計図DNA」を抽出してみよう

北海道開拓の村 (011-898-2692)

7/16~18 「第29回北海道開拓の村児童写生会」
7/16~8/14 「夏・むら・ロマン」
7/16~18 「伝統文化 いけ花」
7/22~8/28 特別展「大正百年展」
7/23~24 「大道芸人の実演」(①11:00~②13:30~)
7/23 「呈茶会」(10:30~14:30)
7/31 「菓子づくりの実演」(10:00~15:00)
8/6 「年中行事 七夕」(10:00~16:00)
8/13~14 「大道芸人の実演」(①11:00~②13:30~)
8/20 特別展関連講座「文字にみる大正期からの北海道」
9/11 年中行事「十五夜 お供えづくり」
9/23~24 「秋のふるさとまつり」
9/23~25 「子ども相撲」露店「大道似顔絵描き」
9/24~25 「農産物の試食提供」
9/25 「神社祭礼、子供みこし」「田舎芝居」

北海道立近代美術館 (011-644-6881)

6/2~9/11 常設展「むじゃきなコレクション」同時開催「現代ガラス」「ふれるかたち」
6/9~7/3 特別展「国立エルミタージュ美術館所蔵 皇帝の愛したガラス」
7/15~8/21 特別展「地上の天宮 北京・故宮博物院展」
9/16~20 移動美術館 別海町<中央公民館>
9/23~27 移動美術館 西興部町<公民館>
10/1~5 移動美術館 福島町<福祉センター>
10/8~16 移動美術館 室蘭市<市民美術館>
10/19~23 移動美術館 真狩町<公民館>

北海道大学総合博物館 (011-706-2658)

~11/20 言葉は境界を超えて-ロシア・東欧作家の作品と世界
7/2~10/2 Lepidoptera(レピドプテラ) 一空を舞う昆虫たち、チョウとガの世界-
7/9 「葉に潜る昆虫-ホソガ科」
7/16 「ナポコフとジャンル越境」
8/13 「世界の蝶の地理分布-展示解説を主体に」
8/21 「ハイドンの境界性」
9/10 「花と昆虫の利害関係」
9/17 「ポーランド移民と越境」
10/15 「カフカについて」

北海道立文学館 (011-511-7655)

7/2 「福永武彦展」関連講演会
7/3 講座「宮沢賢治について」
7/23~8/28 特別展「ファミリー文学館 絵本の原画を運ぼう!~現代版北前船の旅 あべ弘上「かちかち山」」
7/23~11/7 ファミリー文学館
7/26 ワークショップ「絵馬を描こう!」
7/27~29 夏休み文学道場
8/5 朗読会
8/6 朗読会
8/7 講座「声に出して読む本の楽しさ」
8/28 映画鑑賞会「伊豆の踊子(1954年、98分、DVD)、川端康成原作」
9/2 朗読会
9/16~11/7 特別展「赤色エレジーから小梅の初恋 林静一展」
9/23 文学館まつり
9/24 「林静一展」関連講演会

後志

小樽市総合博物館 (0134-33-2523)

~7/29 巡回館小さな企画展「黄金期の小樽の姿 新着資料の地図から」

小原原備記念美術館 (0136-21-4141)

~8/21 生誕百年記念・小原原備自伝風な展示会「遙かなるイメージ」
7/22~8/21 しりべしミュージアムロード共同展
8/25~10/2 生誕百年記念・小原原備自伝風な展示会「チベットその聖と俗」

8/25~10/2 第53回 観彩会展
8/29~9/30 造形展「風の中の展覧会Ⅷ」
10/6~11/13 生誕百年記念・小原原備自伝風な展示会「定番作品展」
10/6~11/13 特別展「米澤邦子展」

(財)北-ヴェネツィア美術館 (0134-33-1717)

~8/29 「ヴェネツィアガラスの美しき生き物展-巨匠遠が愛した生命の躍動」
8/30~11/28 「ガラスに宿る、命と愛のかたち展」

木田金次郎美術館 (0135-63-2221)

7/2 美術館講座「木田作品オリエンテーリング:岩間編」
7/15 第17回「木田金次郎生誕祭」ミュージアムコンサート
7/16 記念講演会「日本近代美術を彩る作家たち」しりべしミュージアムロード共同展「旅へ出よう~そうだ!海をみよう」
7/22~8/21 夏のナイトオープン(20:00まで開館)
7/30 夏休みワークショップ
8/3 美術館講座「木田作品オリエンテーリング:積丹半島編」
9/10 美術館講座「木田作品オリエンテーリング:秋のナイトオープン(20:00まで開館)」
9/23~10/10 特別展「加藤芳信展」
~10/16 北海道銀行創立60周年記念特別展「北海道銀行コレクション展」

西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

7/22~10/16 夏から秋の展覧会「西村計雄の世界旅行」しりべしミュージアムロード共同展「旅へ出よう(田園へ)」
7/23~8/14 普及事業「夏休み自由研究応援部隊」
8/24~10/16 山岸正巳展「山岸正巳のヨーロッパ旅行」
9/18~10/16 公募展「行ってみたい!こんな国」
10/20~3/11 開館12周年記念展「-渡辺から60年-西村計雄 私のパリ」
10/29 開館12周年記念イベント(コンサート&チーズパーティー)

空知

三笠市立博物館 (01267-6-7545)

7/3~11/3 特別展「太古の王者恐竜」
7/23 「夏休み化石自由研究相談」
7/26~28 体験実習「化石って何?」
8/2~4 体験実習「アンモナイトについて知ろう」
8/6 「夏休み化石自由研究相談」
8/9~11 体験実習「のぞいてみようアンモナイトの殻の中」
8/13~15 「化石クリーニング体験」「化石レプリカ作り体験」「展示解説ツアー」

渡島

市立函館博物館 (0138-23-5480)

7/1 宇宙と天体シリーズ「夏の星座を見てみよう」
7/23~9/11 特別展「伊勢神宮と北海道」
7/24 親子で作る「ベタベタアート」
7/27 夏休み自由研究「鉄道車両の仕組みとJR見学会」
7/28 わくわく科学教室「ドライアイスで遊ぼう」
7/29 わくわく科学教室「親子で「なご砂」を作ろう」-シリカゲルって何-」
7/30 展示解説セミナー「伊勢神宮と北海道」
7/31 Jr.考古学ハセ義成講座「黒曜石で矢じりを作ろう」
8/6 講演会「伊勢神宮と北海道」
8/7 Jr.考古学ハセ義成講座「縄文の宝-勾玉を作る」
8/9 夏休み自由研究「手作りおもちゃを作ろう」
8/10 夏休み自由研究「昔の道具を調べよう」
9/11 Jr.考古学ハセ義成講座「縄文土器づくり」
10/18 展示解説セミナー「企画展「新収蔵資料展」」
10/18~11/20 新収蔵展
10/23 展示解説セミナー「ロビー展「亀ヶ岡統一戸広臣の世界」」
10/30 パスツアー「縄文文化交流センターへ国宝を見に行こう!」

上川

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

7/16~9/9 ウッドワン美術館名品選「巨匠たちの饗宴」
7/16 美術館講演会「近代美術とウッドワン美術館コレクションの名品」
7/26~7/31 夏休み工作市場「わくわくオリジナル額縁作り」「ミニ掛軸で絵を飾ろう!」
8/4・11・18・25 ギャラリー1点トーク
8/6 特別講座I「近代日本画に見る美人画-松岡、清方」
8/13 特別講座II「岸田彌生:の麗子像をめぐる」
9/16~11/13 北海道立近代美術館コレクションの華「シャガール、パスキンとエコール・ド・パリの綺羅星たち」

旭川市科学館「サイバル」市川 (0166-31-3186)
 7/16~9/4 特別展「ロボワールド」
 9/23 動物学ひろば

旭川市博物館 (0166-69-2004)
 7/3 東日本大震災特別企画「富良野活断層見学会」
 7/16~18 普及事業「夏休み!博物館」
 7/16~9/4 特別展「ロボワールド2011」(仮)
 7/18 普及事業「大人のための自然観察会 浮島湿原」
 8/5~8/16 普及事業「夏休み博物館体験」
 8/12~8/16 Night museum
 9/3予定 普及事業「市民火山見学会」
 9/17~25 普及事業「秋の博物館まつり」
 10/2 普及事業「子ども向け キッチン火山学」
 10/8~10 普及事業「食欲の秋!博物館」

中原第二記念旭川市彫刻美術館 (0166-52-0033)
 7/2~10/16 企画展「舟越保武・舟越桂展〜静かな詩〜」

名寄市北国博物館 (01654-3-2575)
 7/23~8/28 特別展「花に集まる虫たち〜チョウ・ハチ・甲虫〜」
 10/7~11/13 企画展「藤倉英幸「北の風物語」はり絵でつむぐ、ぬくもりの風景たち。」
 10/23 講演会「藤倉英幸講演会」

富良野市立博物館 (0167-42-2407)
 7/29/3 ワークショップ「アートを楽しもう! (全3回)②③」
 7/16~8/28 富良野アートギャラリー「遊・美・術」(あそび・ひ・じゅつ)
 7/18,8/13,10/8 観察会「富良野の自然に親しむ集い」(全5回)②・③・④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 7/27 特別展開催記念ワークショップ「遊・美・術」
 8/18 見学会「博物館・美術館めぐり」
 9/17~10/23 写真展「いのちの記憶」

宗谷 オホーツクミュージアムえさし (01636-2-1231)
 7/16~8/31 特別展「樺太〜知られざる北の国境」(北海道大学総合博物館との共催事業)
 7月下旬予定 講演会「日本領時代の樺太」(仮称)
 8月中旬予定 講演会「樺太国境標石」(仮称)
 8月下旬予定 講演会「サハリンと大陸の先史文化」(仮称)

胆振 苫小牧市博物館 (0144-35-2550)
 7/16 「ウトナイ 今昔」
 7/16~8/28 特別展「鳥の世界」
 7/30 芸術探訪「地上の天宮〜北京・故宮博物院展」
 8/2~4 夏休み自由研究相談室
 10/1 自然観察会
 10/15 歴史遺産ツアー

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)
 7/23~9/4 企画展「懐かしの看板展」
 8月 室蘭市「平和都市宣言」啓発事業「戦跡巡り」
 10月 体験学習会「とんでん館寺子屋教室『焼き芋と木製コースターづくり』」

日高 新ひだか町郷内郷土館 (0146-42-0394)
 7/26~9/25 企画展「アイヌ植物歳時記」(仮称)
 7/10 郷土館おやこ塾「縄文土器を作ろう!」〜作陶編〜
 7/31 郷土館おやこ塾「縄文土器を作ろう!」〜野焼き編〜
 9/4 郷土館おやこ塾「化石クリーニング体験」①
 9/11 郷土館おやこ塾「化石クリーニング体験」②

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (01457-2-2892)
 7月後半〜8月の26日間開催予定
 アイヌ文化体験学習講座「木彫コースター制作体験」
 9/16~10/16 企画展「N.G.マンロー 二風谷での研究・医療奉仕活動」(仮称)
 10/2 文化的景観現地説明会「寿生の農村景観を観る」
 10/18~12/15 第18回特別展「沙流川流域の農村景観を観る〜文化的景観の魅力的な発信に向けて〜」(仮称)

十勝 帯広百年記念館 (0155-24-5352)
 7/2 郷土学習バス見学会「十勝平野の生い立ちを探る」
 7/2 親子陶芸教室「好きな器を作ろう」
 7/2~31 ロビー展「荘田喜興志写真コレクション7〜昭和からの伝言」
 7/9 親子陶芸教室「自分だけの陶器」

7/16 親子陶芸教室「陶器にチャレンジ」
 7/16 博物館講座「公園の虫がかし」
 7/23~24 「植物パラタクソノミスト養成講座(初級)」
 7/30 親子七宝教室「ブローチ、ペンダントを作ろう」
 8/5~31 ロビー展「ふるさと浦幌成獣」
 8/6 体験教室「じょうもん人と腕くらべ〜矢じり作り〜」
 8/6 博物館講座「こわい話〜朗読の世界〜」
 8/17~23 前期陶芸講座修了作品展
 8/21~9/25 企画展「とちの化石」
 8/21 体験教室「化石はつくつミニ体験」
 8/27 博物館講座「十勝はむかし海だった」
 9/3 博物館講座「緑ヶ丘公園の秋の植物」
 9/3~30 ロビー展「田辺泰夫写真展」
 9/9~11 夜学講座「アイヌ文化基礎知識講座」
 9/13~23 陶芸サークル展
 9/15 博物館講座「アイヌ絵からわかるアイヌ文化」
 9/17 博物館講座「レコードと音の文化史XVIII」
 9/22 博物館講座「アイヌ語で自然かんざつ」
 9/23 郷土学習バス見学会「南十勝の歴史探訪」
 9/29 収蔵作品展関連行事「対談 寺島春雄が残したものを」

9/29~11/23 収蔵作品展「魂の画家・寺島春雄の世界」
 10/12 後期陶芸講座開講

神田日勝記念美術館 (01566-6-1555)
 8/9~21 「馬の絵人賞作品展」(仮称)
 8/9~9/4 「阿部典英展」(仮称)
 8/21 「第19回馬耕忌」
 9/6~10/2 「神田日勝、画家デビューの頃〜early 1960's」
 9/6~10/2 「十勝の風景と静物〜個人所蔵作品による作品と素描」展
 10/4~11 「第17回馬の絵作品展」
 10/4~30 「十勝の風景と静物〜個人所蔵作品による作品と素描II」展
 10/4~30 「人と馬とのかかわり〜馬の博物館所蔵作品展」

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)
 7/1~9/7 常設展「自然へのまなざし〜パルピソンの絵画と写真」
 7/1~9/7 特別展「開館20周年記念 十勝の美術クロニクル」
 7/9 美術講演会
 7/16 キッズ・ミュージアム
 7/23 特別展セミナー
 7/30 サマー・ミュージアム
 8/6,13 ミュージアム・ミステリー2011サマー「とちのビジュツを知ろう」
 8/20 特別展セミナー
 9/16~11/7 常設展「美術のみ・か・た くらべてみよ!」
 9/16~11/7 特別展「ウッドワン美術館名品選 巨匠たちの饗宴〜日本近代絵画〜」
 10/8,22 特別展セミナー
 10/15 美術講演会

釧路 厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)
 7月中旬 特別展「海のバネル展」
 9月上旬 展示会「海の作品展」
 ~9月上旬 プラネタリウム投影
 9月上旬~12月上旬 プラネタリウム投影

釧路市立博物館 (0154-41-5809)
 ~7/18 企画展「ベトナム・炭鉱(ヤマ)の風景」
 7/23~9/11 特別展「春採湖の昆虫」
 9/17~11/6 企画展「銅網線80年展」

標茶町郷土館 (01548-7-2332)
 7/16 共催事業講座「縄文土器を作ろう」
 7月下旬 郷土館講座「しべちの遺跡探検隊」
 9/10 郷土館講座「マサコヤシマ遺跡体験発掘」
 9~11月 標茶町内自然系登録資料移動展「町の自然を記録する!〜郷土館の研究活動〜」
 10月 館外企画展「標茶の先史 最前線!」
 10/15 共催事業講座「ストーンナイフにチャレンジ」

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)
 7/3 ギャラリー・トーク「ここに文明がある〜平山郁夫の旅と芸術」
 7/6 大人の家庭科③「はじめての本格的フェルトづくり」
 7/10 学芸員による鑑賞ツアー
 7/24~8/17 キッズ・アトリエ
 7/24~8/28 佐々木秀明展+アート5
 8/27 アートシネマ館「オズの魔法使い」

9/3~11/7 釧路が育んだ世界の画家 増田誠展
 9/11 ミュージアム・コンサート「神谷徹ストロークコンサート」
 9/24 アートシネマ館「黄金」
 10/22 アートシネマ館「素晴らしき哉人生」

網走 博物館網走監獄 (0152-45-2338)
 7/2~3 「博物館バスツアー 十勝監獄を巡る旅」
 7/16~30 「全国刑務作業製品展示会」
 7/31 「ニボボを彫ろう体験講座」
 8/1~ 展覧会「近代獄舎の誕生と建築家たち」
 8/6 「季節を染めよう ハマナス染色体験」
 8/7 「七夕の風物詩」
 8/10,21,9/4,10/24 「農園体験ワークショップ」
 8/27 「煉瓦を焼こう」
 9/12 「年中行事 十五夜」
 9/17~19 「二見湖畔神社秋祭り」
 10/22 「秋の自然体験 落ち葉のプールで泳いでみよう」
 10/30 「ニボボの森のリース作り体験」

美幌博物館 (0152-72-2160)
 7/3~10/30 企画展「寄贈美術資料展①」
 7/9 自然講座(講演会)「屈間のホテル〜スジグロベニボタルを観察しよう」
 7/10 自然講座(観察会)「屈間のホテル〜スジグロベニボタルを観察しよう」
 7/14,21~7/14 プチ工房「紙すきはかき体験」
 ミニ展示「雨季」
 7/23 びほろふるさと体験隊「夜の森を探検し隊」
 7/27~28 夏休み子ども自然教室
 7/30 モノづくり講座「毛布りを作って釣りに行こう!」
 7/31~9/25 ミニ展示「花季」
 8/2 夏休み子ども工作教室
 8/6 夏休み子ども自然教室
 8/11,18 プチ工房「平編みプレスレッド」
 8/13 モノづくり講座「布ぞうりに挑戦!」
 9/8,15 プチ工房「ちよこっと草木染め体験」
 9/10 モノづくり講座「輪ゴムでかんたん!草木染め」
 9/17~19 びほろふるさと体験隊「秋のキャンプでワクワクし隊」
 9/24 自然講座(講演会)「意外とおもしろい!美幌の貝の話」
 9/25 自然講座(観察会)「意外とおもしろい!美幌の貝の話」

北網走北見文化センター (0157-23-6742)
 7/10 楽しい自然観察会
 7/16~8/21 企画展「巨匠たちのパレット&絵画展」
 7/20,8/17,9/7,10/13 おさんぽ自然観察会
 7/28,8/5 夏休み自然体験教室
 8/27~9/1 夏休み作品標本展
 ~8/27 シルクスクリーン講座(全10回)
 9月(2回) 北見市文化財めぐり
 9/17~11/5 染色講座(全8回)
 10月 美術ボランティア見学研修
 プラネタリウム「ケロロ曹雷 星空をとりもどせ!太陽系大追跡であります」
 ~1月 天体観望会
 ~2月 少年少女発明クラブ

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)
 7/16~10/16 特別展「ウイльтаとその隣人たち〜サハリン・アムール・日本 つながりのグラデーション」
 7/23 講習会「ウイльтаの文化お人形「ホホー」づくり」
 7/24 講座「特別展解説講座」
 7/30 はくぶつかんクラブ「北の文様でゆらゆら動くモビールをつくらう」
 7月下旬 講座「アイヌ文化調理学の活用をめざして」
 8/6 はくぶつかんクラブ「草(わ)でつくるミニトレ」
 8/7 講習会「ウイльта文様のバッグづくり」
 8/20 講習会「ウイльтаの手袋「マンパッカ」づくり」
 9/3 ウイльта文化映像上映会
 9/17 講習会「ウイльтаの靴「ウッタ」づくり」
 10/1~2 第26回北方民族文化シンポジウム
 10/8 講習会「親子で楽しむカムチャツカ風サケ料理」
 10/15 講座「北海道博物館紀行「オホーツクミュージアムえさし 琥珀を磨いてみよう」」

紋別市立博物館 (0158-23-4236)
 7/22~8/16 特別展「鈴鹿芳康/ジェフ・チャップリン写真展」
 8/20~9/19 特別展「オムサロ遺跡の歴史と自然」
 9/27~10/20 企画展「アートとの対話〜オホーツクからの発信」